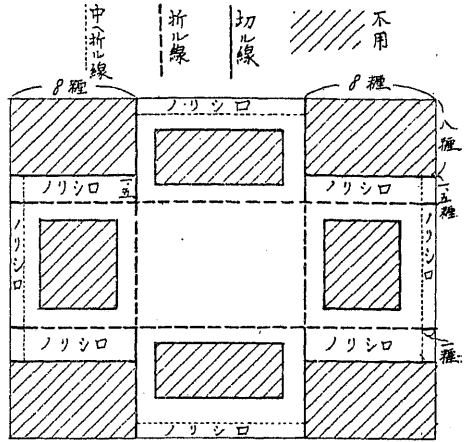


佳作一

# 大鋸屑繪



作り方

- 1、金魚を摺込み適宜糸をつける
- 2、圖の如く畫用紙を切りはなす
- 3、畫用紙に糊をつけセロハンを貼りつける
- 4、金魚を適當につるす
- 5、底を貼りつけ、角を切り取る
- 6、毛糸にて手をつける

三重縣上野町立第一幼稚園 西口 志佳

大鋸屑繪の出來上る迄

或日 園児が、よく乾いた白い砂を、細かく篩つて、お砂糖屋さんごっこを、はじめました。

「をばさん お砂糖買ひに来て下さい」

「マア、きれいなお砂糖ですこし、一袋おいくら」

「拾錢」

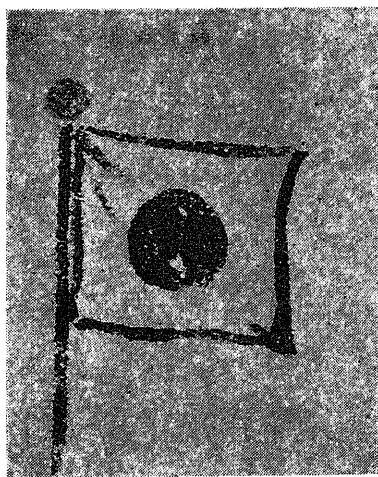
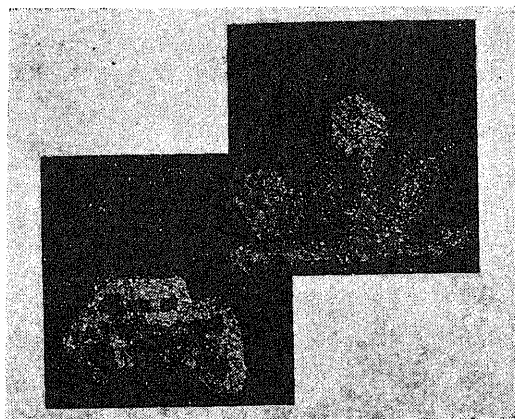
「次は、お馬」「ハイお馬  
カッポ〜」

「その次は、自動車」ミ、  
あみから、あみから注文殺  
到、そのうちに



「僕も畫かう」

「わたしも」

こいつた様子で、それぞれ  
得意の彩管ならぬ砂を撒布  
しだして、はからずも、園  
庭の一隅に、時ならぬ、砂  
繪の展覽會が、開催されま



「ではこゝへ、置きますよ」

と言つた調子で、白い砂のお砂糖を、澤山買ひました。其  
白い砂を右手に握つて、サラサラ、ミこぼしながら 地上  
に  だの、 だのを畫きましたら、園兒達は大喜び  
で

「先生、こんぎは飛行機畫いて」、「ハイ〜」

して、皆が大喜びをいたしました。

でも、それは、ぢきに消されて跡形もなくなつてしまひ  
ます。消しては畫き、畫いては消す、其束の間が、楽しい  
のですけれぎ、中には消すのが惜しい様な傑作もあつて、  
「何さかものにしたがひ」ミ考へてゐましたが、何も得思ひつ

かず、たゞ、「砂繪遊び」ミして徒らに「畫いては消してしま

ふ」こいふ事をのみ繰り返してゐました。

處が、近頃當地方の其處此處に、製材所が、三つ四つ出來ました。従つて、大鋸屑を積んだ荷車が通るのを、よく見かける様に成りました、其運ばれてゆく大鋸屑を見て、フト聯想したのは「砂繪」の事で御座います。

早速籠に一杯の、大鋸屑をもらつて來て、七夕様に色紙を染めた残りの染料で染めわけて、自分で試み園児にもさせてみました處が、誠に大喜びで「先生もう一枚」「僕ももう一枚させて」こゝ大層な人氣でございます。

こんな下らない「思ひつき」に對して御批評を仰ぐなごしは、實におはづかし、烏澁がましい様に存じますが、當地方としては、この

○材料が非常に得易く、しかも極めて安價である事

○砂繪の様に單色でない事

○紙上に結果が残る事

殊に畫いた直後は、うすくて朦朧として居るが、大鋸屑を散布するに、パツミ鮮明に繪が浮び出すことが、幼兒を非常に悦ばせる事、なほ又自分で考へついた事が嬉しいこと

いつた點で、兎に角提出させて頂きます、さうか、御笑評下さいませ。

材料

A大鋸屑

- 1、よく乾して篩つておく(なるべく細かく)
- 2、染料を少量の水で溶き、更に水を加へてよく攪拌し、瑠璃引器(洗面器か鍋)に入れて火に掛ける、さうして沸騰したら先きに篩つて置いた大鋸屑を入れて、搔き交せる。

- 3、新聞紙か何かの上に、擴げてよく乾かす
- 4、染めない生地の儘のものも使用が出來ます、又大鋸屑には白いの少し赤味を帯びたものこの二種類ありますが、なるべく白いのを選んだ方が染め上りが鮮かです。

B糊

- 1、生麩又は姫糊を湯又は水で溶き薄めてドロくの液状化して置く
- 2、少し薄い色をつけておく(白紙に畫いた場合、畫いた

線のわかる様に)

C筆 繪具筆又は使ひ古しの毛筆

畫き方

畫紙或は其他の用紙に

1、糊(うすめておいた)を毛筆につけて、任意のものを  
畫く

2、其糊の乾かないうちに、大鋸屑を撒布する

3、用紙をたて、靜かに大鋸屑を、拂ひおこすこ、任

意の繪畫が、現はれます。

費用

最後に費用を記しませう。

極めて安價廢物利用

A 大鋸屑代價 拾錢で約六斗

B 直接染料 拾錢で五六升の大鋸屑を染める事が出來  
ます。

以上いづれも、當地方に於ける時價で御座います。